



社会福祉法人 恩賜財団

東京都同胞援護会

TOKYOTO · DOHO · ENGOKAI

同援だより

2008年 秋 号

<http://www.douen.jp/>



人材確保への取り組み

常務理事 菅原 眞廣



前号でも述べましたように、社会福祉法人の現在の課題が「人材の確保・育成」にあることは言を待ちません。給与を中心とする労働条件の改善や、採用から昇任昇格等のキャリア管理の整備など、取り組みなければならない課題は多くあります。ここでは職員の定着を確保するための「安心安全で、働きやすい職場作り」について、当法人の取り組みの一端を紹介したいと思います。

一つ目は、健康診断の充実です。各施設でまちまちであった「健診項目」を法人全体として統一するほか、女子職員に「乳がん健診」と「子宮がん健診」を実施するよう検討しています。また、四十、五十、六十歳の節目に「人間ドック」を利用する際の補助制度を設けました。

二つ目は、メンタルヘルスキアの推進です。どの職場でもメンタルヘルス対策は重要な課題となっております。当法人では、先日、全施設長を対象に専門家による研修を実施しました。今後は、職員が専門の先生に相談できる体制の整備に向け取り組み予定です。

三つ目は、職場内保育事業の実施です。乳幼児をお持ちの職員が子育てしながら働けるよう、「職場内保育室」を開設する準備をしています。

四つ目は、新人職員のフォローアップ体制の充実です。貴重な人材を育てるために、各業種グループによる新人研修と法人全体のフォローアップ研修を実施しています。

今後は、休暇制度、職員表彰制度などの見直し課題となると思われれます。いずれにしても、一人でも多くの職員が安心、安全で働きやすい職場を作っていく、そのことが質の高いケアにつながることを確信し、さらに環境整備を進めて行きたいと思っています。

いきいき福祉サービス

高齢者グループ

ひかり苑

介護課長 守山 文雄

今年度高齢者支援系介護員連絡会では権利擁護部会を設置し、ご利用者の権利擁護について活動をしております。

権利擁護部会では「おもてなしの心を表現できる接遇マナー」の習得を目指し、利用者の権利擁護の側面から問題解決を目的とし、その第段階として、全職員対象のアンケートを行い現時点における職員の「接遇」に対する意識調査を行いました。

その中から「新任」時点からの初期教育の重要性、モチベーションの継続の必要性が課題となり、今回新任研修として「接遇マナーとモチベーションアップ研修」を七月二十九日(火)ひかり苑で行いました。

午前中は介護保険法施行後の高齢者施設に求められるサービスとそれに伴う接遇の基本、「利用者満足」に沿っ

たケア展開を、また「利用者満足」のみならず「職員満足」の観点から、職員のモチベーションアップと維持の方法の講義を行いました。

午後はグループワークを行い、活気のあるディスカッションが行われました。

今後はフォローアップも視野に入れながら、高齢者支援系としての研修体系を確立できればと考えております。

ひかり苑における

モチベーション維持の実践

ひかり苑では介護職員が高いモチベーションを保つて日々のケアにあたれるよう、職員の個別企画をPDCAのサイクルに乗せて行っています。

フロアを2ブロックに分けて、各ブロックに予算を計上し、介護職員が自由に企画・実施できる仕組みを作っています。「行事」にとらわれないことなく、ご利用者の日常生活の「環」としてのケア実現を行っています。

普段から介護職員は「ご利用者のために何が出来るのだろう」「組織の中ではやりたいことを実現するのは難し

い」と感じています。システムを簡素にすることによって、「ご利用者ニーズへの対応速度満足度」があがり「職員の自己実現」につながり「双方満足」の関係作りがされています。

以下にひかり苑新任介護職員の個別企画活動をご紹介します。

ひかり苑

介護員 加藤 亜希

何事もない穏やかな一日。介護職員の仕事は、利用者様が安全で穏やかな一日を過ごせるようにお手伝いする事です。

私たちの仕事は一般的な仕事と違い、利益のような明確な評価基準がありません。毎日同じような事を繰り返しているような錯覚に陥る事があります。そんな環境の中、日々の仕事に刺激や達成感を持たせてくれるもの、それが個別企画です。

どんな事をしたら利用者様が喜んで頂けるか、また日々の生活をより良いものにできるのか。私は「施設で生活をしていても季節感を感じて欲しい」との思いから「花で居室の飾りつけ」「アイスクリーム作り」を企画しました。

自分の考えた企画がたくさんの人を巻き込みながら実現していく過程でやりきったという満足感を、そしてなにより利用者様がみせて下さった笑顔が、

最高の達成感を与えてくれました。利用者様の笑顔のために、そして自分達自身のために。これからも個別企画に取り組みでいきたいと思えます。



ひかり苑

介護員 竹島 美佳

私は梅干が大好きで、毎年昔ながらのしよばい梅干を作っています。

生活に密着した個別企画とは何だろうと考えていたとき、かつては各家庭で作っていた梅干作りを思いつきました。

職員が四苦八苦しながら提供する「レクリエーション」ではなく、自分の好きなこと、得意分野を日常生活の一部のサービスとして提供でき、私自身とても楽しく感じました。



消毒のために焼酎を入れる行程で、まるで梅酒のようになってしまう考え込んで、「失敗してもいい」という課長から助言をいただき、つい梅干の出来そのものに集中してしまっていたことに気がきました。

ちゃんと梅干を完成させることが目的なのではなく、生活としてその過程を利用者様に楽しんでいただくことが大切だったのです。

私は職員の「楽しい」は利用者様に伝わると思いません。自分自身が楽しいことだからより楽しんでいただくにはどうすれば良いか徐々にアイデアが浮かびます。

現在は出来上がった梅干を使っておにぎり作りを計画中です！

障害者グループ

さやま園

副園長 平野桂治朗

さやま園(知的障害者入所更生施設)では、従来、生活支援員の経験的な観点から利用者への心理的サポートを行ってきたていましたが、利用者の成育歴や行爲における問題性の多様化により、その対応に苦慮する面が増加してきたことから、数年前より臨床心理士による相談業務を開始しました。

臨床心理士による専門的なアドバースにより、アプローチの手段が導きやすくなるとともに、利用者との直接的な面談を行うことで、精神的なフォローを必要とする利用者の内面へのアプローチが深められ、より適切なアドバイスを行うことが出来るようになりました。

また、日頃問題性の少ない利用者に対して、違う側面からアプローチすることにより、その利用者の内面にある本質を見出すことができ、表面的な捉え方のみによる支援から多面的に利用者をつまえた支援に努めることが出来るようになってきています。

利用者にとっても心理相談において、自分が日頃感じていることや思っ

ていることを素直に話すことが出来る場面を提供することで、満足感を持ち、施設生活での生きがいの一つとなっているようにも感じられます。

心理相談に加え、利用者や職員が同じ視点に立つてお互いに積極的な時間を共有することにより、その利用者の内面を理解し、また利用者に関心を持つていくことを伝え、その利用者を中心とした参加者全員の関係性を高めていくための**ポジティブサポート**を行っています。

具体的な手法は、利用者一名、職員数名(全員で五〜十名程度で三十分から一時間程度同じテーマ(例えば「○さんの好きなこと、得意なこと、関心のあること」など)に基づいて順番に発言(思いつかなければパスもできます)し、その発言について横からコメントを入れたり批判したりしないことがルールです。利用者の問題性に対して具体的に働きかけるものではなく、心理療法でもありません。むしろ、職員側が利用者をつま深く理解し、適切な「見方」が出来るようにするために必要な活動と言えるでしょう。

日頃、どちらかと言うと利用者の問題性にばかり目がいくところを意図的にポジティブな部分に目を向け、多面的にその利用者を見ることが出来るようになる。利用者の見方が少しずつ良い方向に変わり、相互の関係が良い方

向に変わっていくことに意味があるのです。

利用者は自分の良い面、積極的な部分を見てもらい、認めてもらうことで自信へとながり、参加者の発言内容を後で利用者本人に渡すことで繰り返し考えることもできます。さらには、人の意見を聞くこと、人前で発言をすることで社会性の向上にもつながり、回を重ねることに参加者の表情が豊かになってきています。

また、一つのテーマを利用者複数のみで自由に意見を述べ、考えていくことを目的とした**パーソンセンター**も実施しています。

ポジティブサポートと並行して、クラスや作業班単位での五〜十名程度を「グループ」として実施し、同じ課題をみんなで考え、意見交換し、課題や思いをグループ内で共有することにより、利用者個々がそこに立ち向かう時、今まで以上に視野を広げ、客観的に自分と向き合うことが出来るようになります。

このような新しい手法での心理ケアの充実により、利用者心の整理、前向きな気持ち、人間関係力の向上につなげるとともに、支援員には、臨床心理士からの専門的かつ具体的なアドバイスによる日常生活支援技術の向上に結びつけることもできています。

保育グループ

つつじが丘保育園

保育士 大空加代子

四月から新任職員としてつつじが丘保育園に配属となり、二歳児の担任になりました。二歳児のさくら組は、個性豊かな子ども達です。言葉もはつきりし、子ども同士の関わりも少しずつ見えてくる時期なので、賑やかで発見の連続です。

保育士の仕事を選んだのはボランティアで子どもと触れ合う楽しさを知ったことと、子どもだけでなく保護者や地域の親子への支援が求められている現実をニュースなどで知り、やりがいのある



仕事だと感じたことがきっかけです。子育て支援の専攻がある大学で四年間学んできました。自分には向いていないと思う時期もあり、一般企業の就職活動もしましたが、子どもと直接触れ合い、その発達を見守っていきたくないと再確認しました。希望を探すとき「子育て支援に力を入れている園」というキーワードで探しました。つつじが丘保育園は、園庭開放や地域の行事への参加など積極的に取り組んでいます。また、法人内の他の施設へも異動できると知って就職を希望しました。

保育士という仕事に就き半年経ち、様々な発見と学びがありました。

一目は子どもへの関わり方です。勤務日「実習生ではなく、ここで働くのだからもつと子どもに声を掛けるように」という先輩の言葉にハッとしました。落ち込みましたが、一番この子ども達のことを知っていないなら担任として、責任を感じた二言でした。その後は自分に足りない積極性を磨き、距離を縮められるように心掛けました。「何してるの?」「上手だね」など意識して声を掛けています。目を重ねるうちに、「毎日さくら組にいる」と知ってくれたのか「大空先生」と呼んでくれる子どもも増えてきました。今では、部屋に入ると走って抱きついてきたり「大空先生のハッピーバースデー」とブロックを持ってきてくれたりします。子どもの中に入れても

らえた実感し、信頼関係を築く上では、こちらから心を開いていくことが重要だと感じました。

二つ目は保育士の役割です。クラス全体をリードする役割、それを補助する役割などがあります。三ヶ月経ち、自分がリードする役割をしました。四月から入った自分が、ただ話すだけでは子どもは聞いてくれません。保育技術の無さを感じ、うまく行かず子どもが落ち着かない状況が続きました。経験三ヶ月間の自分と、五年、十年経験のある先輩方とは違うことはわかっていましたが、苛立ちや焦りがありました。そんな時「クラス全員をひっぱっていかうとするのではなく、流れにうまく乗れない子どもは他の先生が対応していく。役割はあるが一人



ではなくクラスの保育士全員で保育していく」とアドバイスを頂き、自分二人でやろうと肩を張っていたのが、ふと力が抜け、いい意味で子どもに向き合うことができました。

三つ目は地域の中に保育園があるということを行事などで実感しました。特にくじら祭りが印象的でした。くじら祭りは昭島市民祭りです。幼児と職員が地域の方と一緒によさこいを踊ります。本番当日、ハッピー姿の子どもたちも祭り化粧をします。緊張している子どももいれば、堂々としている子どももいました。地域の方も盛り上げてくれ、無事踊りきりました。この様な経験が少しでも子ども達の心に残って、故郷への親しみとして育つことを願います。知



らない人が子どもに挨拶や話かけたただけで不審者と情報が流れる世の中です。園が地域と子ども・親との架け橋となつて、つながりを深めていけたらと思います。この様な行事をきっかけに、地域の一人であることに自分に気づき、つながりを大切にできる子どもに育ってほしいと願います。様々な人に関わる経験は、その後の人格形成に大切です。私自身も地域を振り返るきっかけになり、まず挨拶など自分ができることから始めてみようと思っています。この様な行事を伝統としてつないでいくと共に、地域のつながりも大切にできる保育士になりたいです。

また、保育園は、危機管理も重要です。保育する上で、保育園は安全・安心

に過ごせる場であることが基本です。救急法や不審者対応は、消防署や警察の指導を受けます。不審者対応では、不審者は子ども達に危害を及ぼさないようにできるだけ遠ざける、外へ追い出すことが大切であるという心得と対応を学びました。同時に、生命をお預かりしているという責任を強く感じました。保育園の行き帰りの道や休日子どもを守るのは保護者や地域の目です。園を離れるからいいというのではなく、「知らない人にはついて行かない」という指導や、子ども達を守る地域の人を育むことも園としてできることだと思えます。日頃から地域のつながりを作っていくことがより重要であると感じました。

この半年間で、保育士として一人一人前になるのではなく、先輩保育士や子どもに支えられたり、アドバイスをもらえる環境にあるのだと感じました。保育は一人ではなく、チームが大切、連携を取り合うからこそいい保育ができる実感しました。まだまだ自分の保育はつじが丘保育園が目指している保育とは遠いのですが、様々な先生の姿をみて自分なりのやり方を見つけていきたいと思えます。そして、子どもの気持ちに寄り添うことを大切にしたい保育を積み重ね、保護者も地域もまるごと支援できるような保育士になりたいです。

児童女性グループ

双葉園

児童指導員 梶 裕子

この春、双葉園に児童指導員として入職させて頂き、約三ヶ月が経ちました。

私は「なれることから生活を知る」ということを課題のテーマとして、「職場の規範を理解し、雰囲気早く慣れる」、「利用者への理解を深める」、「援助技術のスキルを向上させる」という三つの目標を立てました。また、その目標を達成させるために月ごとに細かく手段や方法を設定しました。

一ヶ月目は「職場の規範を理解し、雰囲気早く慣れる」という目標に対しては、①一日の業務の流れを理解する②職員の方の名前と顔が一致するようにする③報告・連絡・相談を心掛ける④上司・先輩の手伝いを進んで行い、仕事を覚える⑤職場でのマナーを身につける

⑥重要なことはメモをとるということを設定しました。また、「利用者への理解を深める」という目標に対しては、「利用者の方と名前が一致するようにする」ということを設定しました。そして、「援助技術のスキルを向上させる」とい

う目標には、①自分から利用者へ声掛けを行い「接しやすさ印象を心掛ける」②指導者の指導や助言を積極的に求めて学習を行うということを設定しました。

二ヶ月目では「職場の規範を理解し、雰囲気早く慣れる」という目標に対して①自分に与えられた業務を責任を持って遂行する②自分の役割を知ること設定し、「利用者への理解を深める」という目標に対しては①利用者や家族の課題やニーズを理解する学習を行う②個別に落ち着いて話をする事ができるようになるということを設定し行動するよう心掛けました。

そして、三ヶ月目は「援助技術のスキルを向上させる」という目標に対して①先輩職員の方々のアプローチ方法を参考に、自分なりに実践していく②新人研修で行った「LIFO」をもとに自己啓発、自己理解を行うということを設定し行動することを心掛けました。

この三ヶ月間、このような基本的なことを心掛け行動しましたが、初めて経験することがほとんどであり、全てのこと緊張して取り組んでいました。したがって、自分の能力が発揮できず悩むことが多くありました。

実際、私はこの仕事を辞めたい…この仕事から逃げたい…と弱音を吐いたことが何度もあります。何度も涙を流しました。子どもを思っ

ローチをしますが、それが反発で返ってくると言葉でも文章にも表せないような心が締め付けられる気持ちになります。新人ということもあり、子どもから「新人のくせに：」と言われてしまうこともあります。子どもたちが双葉園に措置されてきた背景を思えば、もつと私は自分の感情を抑えなければならぬと思います。正直辛く傷つき、子どもにも負の感情を抱きそうになりそうな時もありました。

また、私は仕事をこなすのが遅いので、先輩職員の方々の足を引っ張ってしまっているのではないかと：思うように仕事をこなせていない自分に対して無力感を感じる：とネガティブになることがあります。

しかし、園長や先輩職員の暖かいフォローや自分の家族に支えられて、どうにかこうにかこの三ヶ月間勤めてきました。また、子どもから傷つけられることもありますが、その反面、子どもたちの笑顔や元気からやりがいや勇気をもらうこともあります。この先、色々と待ち受けていると思いますがその中で精神的にも体力的にも強くなりたいと思います。

双葉園で働き、実感したことがあります。それは現場では一つのことをしながらも全体の状況をきちんと把握し、行動しなければならぬということだと思います。しかし、まだまだ目の前にある仕事

や一人の子どもを対応するだけで精一杯の状態があります。日々勉強だということを感じています。

働き始めて、これまでに経験したことがない責任から、気持ちも焦ることが多くあり、やはり不安で押し潰されそうになる時がありますが、そうした不安を払拭するためにも、これから積極的に経験やスキルを積み重ね、丁寧な援助ができるようになりたいと思っています。

また、先輩職員の子どもたちに対する課題支援の方向性、目標からくる意図的な声掛け等のアプローチ方法を参考に、様々なスキルの向上と子どもへのアドボケートを常に意識して行動できるように努力していきたいと思っています。

三ヶ月を振り返って、まだまだ私は未熟ですが、子どもたちからも、また先輩職員の方からも必要とされ、安心感のある職員になれるように常に成長を心掛けて戦力になつていきたいと思えます。自ら設定した課題と目標をこれからも継続的に意識してプロ意識を忘れずに行動し、技術を高めていきたいと思えます。



昭島病院

昭島病院訪問看護ステーション

管理者 信田真由美

昭島病院訪問看護ステーションが開設して二年六ヶ月が経ちました。

昭島市内にはステーションが少ない事もあり、当事業に対する地域の開設要望が高齢化の進展に伴うその流れ、必要性が迫られる中、色々な方の協力があった開設でした。

開設当初は、PR不足のためか、利用率が伸び悩み増えませんでした。訪問看護利用者は、癌末期の方や高齢者の方が多く病状が変わりやすく、入院又は亡くなるれたり、その他のショート利用のため、訪問がキャンセルになったり、安定した利用率を保つ事はなかなか困難です。その上、他機関との調整など多忙の日々が続き三人のスタッフでは厳しい状況でした。それでも開設できた喜びと訪問して御家族と御本人に喜ばれ、大変ながらも充実していました。

平成二十年四月には一名の非常勤職員が加わり、看護師四名と事務一名計五名となり、体制も充実してきました。利用者に対しての問題点をステーション内で協議したり、処置方法の創意工夫に白熱したり、少人数ならではの連携と協力的体制です。満足度調査ではほと

んどの方が満足しているという結果を得る事もできました。利用終了となられた方からも家族のようなお付き合いをさせていただいたり、訪問看護師の醍醐味を感じています。

一年前に比べると、ホームページも立ち上げられ、院内でも少しずつ訪問看護の活用方法を理解していただき、入院中の患者様の依頼が増加傾向にあります。そして、スタッフにも恵まれ色々な意味で助け、励ましあいながらそれぞれの個性を出し合い楽しく仕事をしています。

益々必要性が高まる訪問看護ステーションを、昭島病院のサービスの一部門として地域の方に信頼され、利用していただくことが管理者の使命と思ひ頑張つていきます。



東村山生活実習所の

改築工事に関して

所 長 飯島 一憲

かねてより待ち望まれていました東村山生活実習所の建てかえ工事がこの十月から開始されました。東京都から運営を移譲されたのは平成十八年四月のこと、建てかえの要望については、かねがね東村山生活実習所を支え続けてきた保護者会の声でもありました。

現在使用している建物は、昭和四十八年に建てられ、築三十五年が経過しています。現在、成人の方々の施設ではありますが、オープン当初は、児童施設としてのスタートでした。現在の利用者の方々の中にも、当時から利用していた方が数名おられます。

長年皆様方に支えられ続けてきた建物も床や壁、また給湯、空調設備などの劣化が目立ちはじめ、安全面や衛生面での問題も当初から話されてきたところです。

私たちが東京都から移譲をうけ実

際に運営をはじめると同時に建てかえに関しての動きがスタートしました。実際に設計から事業内容の細部をつめて、それぞれ関係機関に相談をしながらようやく着工に至った次第です。その間一年半ほどの歳月が流れました。

新たに建物を作る上では、所庭の桜の木を活かし、また施設の前に広がる公園の緑と一体になるような雰囲気を感じること、また福祉施設というような感じの建物ではなく、利用者や地域に住んでいる方々が毎日楽しめるような感じの施設であってほしいという願いで設計をされています。もちろん、日々通う人々が心身ともに心地よく利用できるような空間の演出も落とせないコンセプトです。

また、建物を新築するにあたり、事業内容も障害者自立支援法にそった内容に変更されます。生活介護事業（三十名の定員）、就労継続事業B型（十名）そして短期入所事業（二名）の三事業を行なう予定です。現在、新法に対して事業内容をどのようにしていくのかと日々準備しているところで、いずれにしてもご利用者の方々が楽しく利用できるようにしていきたいと思えます。

最後に現在、仮設施設の工事が進んでおりますが、十二月中には完成、引越しを行なう予定です。新施設の着工は三月末から四月、完成は平成二十二年一月の予定です。新たな施設を開設する上では様々な点で準備をしていかなければなりません。ご利用者の皆様に喜んでもらえるような建物、内容にしていこうと思えます。

双葉園

地域小規模児童養護施設

開設について

園 長 相澤 靖

国は、児童養護施設のあり方について、ケアの単位をより小さくする方向を示しています。東京都では国に先駆け、現在おおよそ百箇所ほどのグループホームを各法人で運営しています。双葉園でも、本年度末に、本体施設から程近い地域の中に、念願であった地域小規模児童養護施設を開設することとなりました。

現在、児童養護施設を利用する子ども達の入所背景は、年々複雑且つ

様々な課題が重積している状況です。地域小規模児童養護施設では、少数ケアの中で、人と人とのより密接な関係性の再構築と、これから社会に巣立つ前に自活・生活力を身につけると共に、自立を促す機能を意図しています。双葉園では小学生から高校生までの女兒六名を対象とした地域小規模児童養護施設として開始いたします。

開設に対して、初代園長高嶋巖先生のご家族であり、前双葉園園長であった高嶋昭子先生からの多大なご支援があつたの実現でもあり、また、双葉園開設からある「子どもは本来すばらしいのだ」という双葉園の理念を、この地域小規模児童養護施設の中にも継続し、高嶋先生達の心をつなげることも大切とすることで、ホーム名を「高嶋の家」といたしました。

今後も本園と連携しながら、地域の中で育つ子ども達の家として築いて参りたいと思えます。



平成二十年度 永年勤続者表彰式

平成二十年十月二日(水)、原町ホームにおいて
同援永年勤続者表彰式が行われました。

■ 永年勤続三十年をむかえて

サンライズ青山

施設長 栗原 茂雄

私が、社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会に入職したのは、昭和五十三年四月のことでした。三十年前

の春先に、就職試験のため初めて行った当時の本部事務局は、旧舎の木造造りで三角屋根玄関のある建物でした。内に入ると伝統ある事務室横廊下の古い踏み板が、割れんばかりにギシギシと音を発していたことや筆記試験と小論文を書いた旧い会場、理事長室での故高山理事長との面接、諸先輩方の思いを感じながら夏目坂を駅に向かって帰路についたことなど、走馬燈のように懐かしい思い出となって脳裏を過ぎりました。

入職スタートはさやま園への採用でした。当時のさやま園は、旧木造モルタル平屋建て三棟からなる建物で、個性豊かな利用者の方々が生活し様々に自己

を發揮していました。新人の私が右往

左往しながらも勤務できたのは、施設長をはじめ諸先輩職員にあたたかく導いていただいたからに他なりません。

さやま園での仕事を通して多くの学びや意義深い経験ができたことは、今日ある私の原点ともなっています。

昭和五十七年四月、板橋区の小茂根福祉園開設に伴ない異動となりました。建物のみが完成したばかりで、空間だけの何もない建物内部へ集まった職員で座る場所の掃除から始まったことや、授産施設と生活実習所(現更生施設)の開所に向けた準備の様子など、懐かしい記憶として甦ってきます。当時の小茂根福祉園は、法内法外複合併設型施設で民間への委託とあつて、国内初のニュータイプ型福祉施設と注目されました。初年度の頃は全国から行政職員・福祉関係者・親の会団体等の見学者が相次ぎ、ドキドキ緊張しながら業務についた日のことは今でも良い思い

出となっています。

平成四年四月、豊島区の福祉ホームさくらんぼに異動となり、施設の開設から施設外へのグループホーム申請時期までを勤務させていただきました。利用者の方々も多様で幅広く、ニーズや課題も複雑な場面が多く、これまでになかった学びと経験ができたこと等々鮮明な記憶として浮かんできます。

平成十二年四月、私は再び小茂根福祉園へ施設長として異動となりました。この年は、区内福祉園利用者の地域割りを翌年に控え、一方で社会福祉法制定や様々な改正移行などめまぐるしい変化の年でもあり、忘れられない年となりました。着任の翌年には区内地域割り利用にともない、更生施設利用者の六割以上が一度に入替り、その後も、苦情解決制度・支援費制度・利用契約制度等々への対応や空調冷却機交換工事・施設内外装大規模補修工事、指定管理へ



の動きなどがあり慌しく過ぎ去つたように思います。

平成十七年四月、再度福祉ホームさくらんぼへ異動となりました。職員も入れ替わり事業内容も増え、雰囲気がつつかり変わつていったことが強い印象として残っています。私の中でこの年の大きな出来事は、指定管理者受審への道のでした。職員グループ会・法人の方々の多大な協力があつて重圧を乗り越えることができました。結果を聞いた時には涙が出るほど嬉しく、感謝の気持ちで二杯になったことが昨日のように思い出されます。

平成十八年四月、サンライズ青山への異動となりました。同援入職以来障がい者福祉の仕事をしてきた私にとって、児童福祉法に基づく施設は初めてのこと。全てが目からうるこ状態で新たなスタートとなりました。DV法、児童虐待防止法など直接的な関係法令、旧母子寮から法改正にともない母子生活支援施設として大きく変化して、利用者ニーズも複雑多様化していることなど、学ばなければならぬことがまだまだ山ほどあることにも気づかさず衝動的でした。

今、三十年永年勤続表彰にあたり振り返りますと、人と職場に恵まれ、多くの皆様の支えがあつたから今日まで歩んで

これらものと深く感謝と御礼申し上げます。当法人の発展と利用者の方々へのより良い支援のサービス向上のため、これからも思いを込めて頑張りたいと思います。

■永年勤続二十年をむかえて

昭島病院

医師 上原 淳

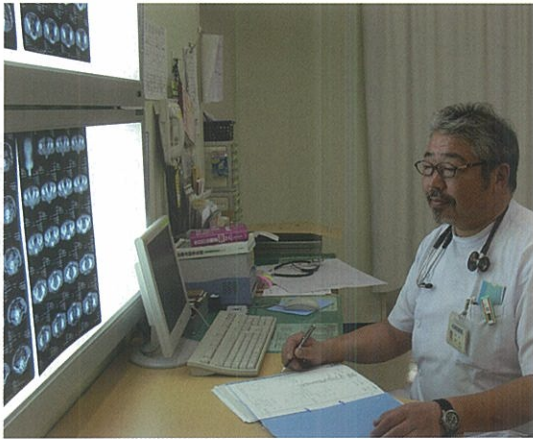
教授から昭島病院への赴任を命令されて二十年。当時の昭島病院は病気が更に悪化してしまいそうなほど老朽化しており、外科医は私一人。患者数は現在より少なかったとはいえ、外来と病棟を二人で診ることはかなりハードでした。当時の私は診療を安全に行うことで手一杯、病院運営に関しては蚊帳の外でした。

その頃、病院幹部と同援本部との関係は決して良好とは言えず病院の運営に大きな影響がありました。蚊帳の外のはずだった私にもその火の粉が降りかかってきました。院長も副院長もいなくなつて、病院の存続が危ぶまれる状態になり、仕方なく私も大学に戻る準備を始めました。その矢先『昭島病院を東京医大の付属病院にする計画があるので、院長代行として病院に残るように』

との学長命令が下されました。

他人事と考えていた病院運営。収支（当然大赤字）をはじめ、初めて経験することばかり。診療終了後、深夜に及ぶ事務長と二人での経営会議、法人理事長や常務理事、大学、昭島市医師会との折衝。家族無視の生活が十ヶ月ほど続きましたが、結局、東京医大付属構想は僅か一票差で東京医大理事會に否決され、荒廃した病院だけが残りました。

法人の理事の中には閉院との意見もありましたが、地域住民のために閉院は出来ません。今度は自力での昭島病院再建計画に取り掛かることになりました。法人の理事長や常務理事の強



力なバックアップの下、紆余曲折の末、急性期病院としての再建計画が法人理事會で承認されました。新しい院長も決まり、本当の意味での同胞援護会昭島病院の誕生でした。そして私も昭島病院に残る決心をしました。

建物の化粧直し、医師の補充など順調に進み、収支も黒字に転換。それを機に昭島病院再建計画の最終段階として、三年前に現在の新病院が完成しました。地域の中核病院として住民の信頼を獲得し、患者数も順調に増え、不確実な医療行政に振り回されながらも、この二十年、昭島病院と共に歩めたことを有難く思います。

■永年勤続二十年をむかえて

立川福祉作業所

副所長 山中 誠一

知的の障がいのある方と関わった仕事を志して福祉の世界に飛びこんだという間の二十年でした。当時は、福祉とは何かも知らないまま小茂根福祉園に配属になり利用者をはじめ園長・諸先輩・職員と共に時に叱られ時にぶつかり合い、時に喜び感動し共感し、人生のなかでも充実した日々を送りました。どんな支援でもそうですが、厳しい

愛情とやさしい愛情で支援しなければなりません。しかし障害のある利用者は伝えたことをすぐに習得することは難しい方もいます。同じ事を何回も何回も繰り返して伝えることで自分のものにしていきます。伝える側も普通以上に忍耐強く取り組みを強いられ優しい支援だけでは、利用者は成功することはできません。時には厳しさも必要です。私自身も人として成長を感じられたのは、利用者から多くのことを教えられたように思います。何事も全力投球で利用者向き合っていたように思い出されます。今もその想いは、脈々と流れています。今も迷ったときなど利用者のご家族から戴いた手紙を読み



返しては初心を思い出しています。現在は、立川福祉作業所の立上げの機会を戴きました。立川には、全く違う生活が存在していました。今まで経験したことのないものばかりの連続です。開設の醍醐味を味わいながら新しい事への挑戦が始まり一つひとつにひるむことなく、新しい上司・仲間・利用者・ご家族と一緒に築きあげてきました。ここにきて

知的障がい者を取り巻く環境も大きく変化し、制度そのものの行き先が全く見えていない状況です。そんな中これから施設は、利用者にとって何が必要なのか、何が大切なかをしっかりと見極めて、すべての人にとって魅力のある施設を目指して全力で一緒に歩んでいきたいと思えます。今までお世話になったすべての方々へ心より感謝いたします。

■ 永年勤続十年をむかえて

ゆたか苑

管理栄養士 寺崎 紀子

ゆたか苑で働き始めて九月で十二年が経ちました。入職した当時は、少ない調理経験しかありませんでした。栄養士として一人立ちすることに不安な気持ちでいっぱいでしたが、周りの職員の方々に支えていただき、どうにか日々を過ごすことができました。

栄養士の仕事の範囲は、一人でやるにはとても広くて、ご利用者の状態に合わせた栄養管理、厨房や調理などの給食管理、その他にも施設内のことなど、実に様々です。本当にあの頃の皆さんの助けがなかったら、今までやってくることはできなかったと思っています。この場をお借りして、お礼を申し上げます。

今では、区内や同援の栄養士さん達とも連絡を取り合いながら、新たな取り組みもできるようになってきました。やつていくごとに新しい課題も出てきて、まだまだ追いつけないこともあります。が、少しでもご利用者の満足につながるようやつていきたいと考えています。



■ 永年勤続十年をむかえて

昭島病院

事務員 日向野陽一

早いもので私が昭島病院で働き始めて十年がたちました。入職する前の昭島病院で働く自分の姿と現実を照らし合わせてみた所、やりがいのある仕事に日々取り組んでいるのは思い描いていたとおりですが、仕事の多彩ぶりについては、良い意味で想像をはるかに越えていると改めて再認識しています。

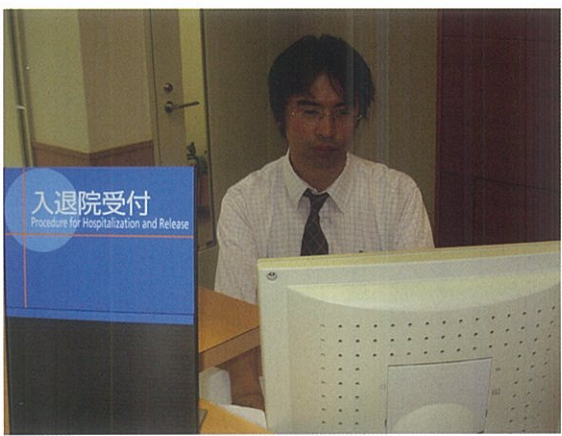
病院の事務といえは患者様の治療費を計算して会計をもらうという仕事だけと思っている方もいますが、それだけではありません。病院改築準備、病院機能評価受審、メーカーとのやりとり、医師、看護師との連携、また他病院との連携など、多岐にわたり仕事をしてきました。

この十年で患者様との対応はとても大切に難しいと学びました。入職してすぐに先輩から「医療従事者の言葉と態度は処方である。これによって患者様への励まし、勇気を与えられる。逆に副作用、私たちがとる言葉、態度によって奈落の底に落とすこともある」と今でもその言葉をはつきりと覚えています。

確かに私達自身誰もが、いつかは患者であるはその家族になるのは避けられない事実です。相手の気持ちを考え接す

れば横柄な態度はとれないはず。今は病院がぶれる時代です。「待つていれば患者が来る」から「選ばれる病院にならなければ」という時代になっていきます。どんなに立派な設備があっても相手の立場になって考えない対応をしていると自ずと患者は離れていってしまう、この事を肝に銘じて働いていこうと思っています。

私はこの十年昭島病院で人間として、とても大切なことを学びました。また二人前ではありませんが、今までの経験をふまえ後輩たちにも伝えていきたいと思えます。またこれまで私を育ててくれた上司、先輩、仲間達にとっても感謝しています。



永年勤続表彰者名簿

30年勤続表彰者一覽

平成20年4月1日現在

施設名	職種	職員氏名
サンライズ青山	施設長	栗原茂雄
万世敬老園	施設長	原田浩二

20年勤続表彰者一覽

平成20年4月1日現在

施設名	職種	職員氏名
立川作業所	副所長	山中誠一
昭島庄	介護員助手	引地 亘
昭島庄	介護員	平塚 正人
昭島郷第二保育園	用務員	上津曲佐代子
同援みどり保育園	栄養士	西澤 和子
昭島病院	医師	上原 淳
昭島病院	看護師	川端 芳子
昭島病院	看護師	小林ひろみ
昭島病院	歯科技工士	近藤 友康

10年勤続表彰者一覽

平成20年4月1日現在

施設名	職種	職員氏名
サンライズ武蔵野	書記兼指導員	鷺崎 明子
サンホーム	調理員	真藤 肇
ニューフジホーム	介護員	片岡 由佳
ゆたか苑	生活相談員	真田 秀平
ゆたか苑	管理栄養士	寺崎 紀子
さやま園	生活支援員	藤原 綾子
さやま園	生活支援員	小川 里美
小茂根福祉園-更生施設	生活支援員	柿木 崇
小茂根福祉園-更生施設	栄養士	山川 聡



施設名	職種	職員氏名
昭島庄	介護員	穂谷 稔
昭島庄	生活支援員	内田 憲
さいわい福祉センター	生活支援員	河野 直樹
むさしの保育園	保育士	鈴木さゆり
大山保育園	保育士	秦 淳子
昭島郷第二保育園事務局	事務員	原田 裕子
つつじが丘保育園	保育士	木下 美佳
つつじが丘保育園	放射線技師	木下 桂子
昭島病院	事務員	日向野 洋一

ご支援ありがとうございました
(敬称略順不同)

平成二十年六月十三日

平成二十年十月二十日

社会福祉法人 村山苑職員一同
佐々木幸子

後 援 会

(敬称略順不同)

平成二十年六月十三日

平成二十年十月二十日

- ◇牛込理容組合女性部 大内光子
- ◇川鍋商事(株)◇川鍋実◇佐々木みつる
- ◇メグミルク下坪牛乳販売店 下坪唱◇横田屋米店 横山耕平◇長坂滋子◇(有)アタック◇(株)クリンリース◇(株)クシマメデイカルサービス◇デュプロシステム(株)◇(有)海老山◇きのした文具店 木下浩◇安里健和◇山内悦◇東京中央食品(株)◇(株)メディックジャパン◇ひかりのくに(株)東京営業所◇潮上良子◇ネオ・ハルト(株)◇桶川工業(株)◇かぶとや食品(有)◇(株)葉袋造園◇(株)金

- 井商店◇佐藤マサ子◇中村屋魚店
- 中村浩二◇中田谷義一◇ヘアパル
- おかもと◇千修館 海野昌伸◇マツダドライサービス◇東京厚生信用組合 青梅支店◇おしゃれの店ひらまつ◇(株)昭和造園◇昭島ガス(株)◇高伸智子◇斉藤成子◇昭島サンセルフ 高野實◇洋品店 ウエノヤ◇三葉電興(株)◇水村肉店 水村勲◇(株)ハタノシステム 東京支店◇(株)世田谷酸素商事◇(有)竹屋文具店◇(株)ミナカミ◇小田昭子◇川井力◇(株)内田洋行

※「同援だより」に名簿掲載希望欄へ
○印をご記入頂いた方のみ掲載しております。



し
せ
じ
通
信

◆サンライズ武蔵野◆

毎年九月の第二週の土曜日、日曜日に母子一泊レクリエーションを行っています。日々の疲れをリフレッシュするとともに、親子の触れ合いや利用者同士交流を深めることを目的に実施しています。今年度は、二日目に八景島シーパラダイス、二日目に長井海の手公園ソレイユの丘に行ってきました。今回は、十八世帯中十四世帯の三十六名が参加してくれました。

一日目の出発の際、集合時間を待ち切れず、子ども達数人は、リュックを背負ってお菓子を持って、玄関を行ったり来たりしていました。お母さんたちは、オムツ、着替え、ベビーカーと大荷物を抱え、楽しさ半分、大変さ半分という心持ちがあつたようにも思えます。

八景島シーパラダイスでは、自由行動でしたが、園内で、職員と会うと手を振ってくれたり、「ジェットコースター乗った？」と声をかけてくれ、元気に遊んでいる様子が窺えました。また、初めて見るイルカやウミガメ、色々な種類のカエルを見て、興奮している子どももいました。一日目は天候にも恵まれとても暑く、かき氷を食べ、楽しく過ごす親子の様子がありません。

二日目、小雨が気になる天候でしたが、現地のソレイユの丘に着くと日が照



り始め、暑さを感じる陽気になってきました。暑ければ水遊びといった感じで、子ども達はじゃぶじゃぶ池で大はしゃぎ。お母さんも職員も洋服が濡れるほど、一緒に遊んでいました。他にも、馬に乗った子や公園で遊ぶ子もいました。その後は、親子でアイスクリーム作りを体験しました。材料を混ぜ、氷の上で材料の入ったボウルを、親子で一生懸命、回転させて固めていました。作り方をメモして、「家でも作ってみる。」という声も聞かれ、楽しい時間を過ごすことができましたように思います。

一泊レクとなると、普段とは違う親子の様子や子ども達の姿を見ることができきます。また、利用者同士の交流も違った雰囲気の中で持つことができると思

ます。自然や動物に触れたりし、子ども達の眼が輝いている姿を見ると、体験や経験は貴重だと改めて思います。参加者が減っている施設もあると耳にしたことがあります。今後このような行事を大切にしていきたいと思っています。

(縣記)

◆昭和郷保育園◆

昭和郷保育園の特徴の一つは、昭和公園や昭和記念公園等といった緑豊かな環境に囲まれていることです。春には、昭和記念公園に親子遠足に出かけたり、乳児クラスも秋にはミニ遠足を楽しんでいます。

園庭解放・体験保育・時保育その他に地域の未就学児親子を対象に計画した絵画教室にも参加して頂いた方から毎回楽しみにして下さる声を頂き、今年で六年目になりました。昭島市子育て情報誌や掲示板ポスター等で呼びかけたり、参加された方のくちコミで去年までは一時保育はスポット利用が多かったのですが、今年度は長期で希望される方が多くなり、呼びかけなくても申し込みが絶えないほど定着してきました。

地域交流のひとつ近隣の病院との交流をかさね三年目になります。涙を流してくださった患者さんとの握手…子どもたちの中で一緒に感動の涙を見せた場面にも遭遇したことがあります。そして、温かな拍手を頂き子どもたちの表情はとても生き生きとし自分たちの踊りを披露することでこんなにも喜んで

同 援 俳 壇

昭島荘 道向会

多摩の川

土手に一筋まんじゅしやげ

博 吉

バリベキユ

秋晴れの下誕生会

美知子

むらさきの

桔梗いろやえ雨のあと

フキ子

満月に

世界の人が手をつなぐ

通子

前向きに

文学まなぶ鯛雲

香 雄

すず虫の

合唱いつか夢ごころ

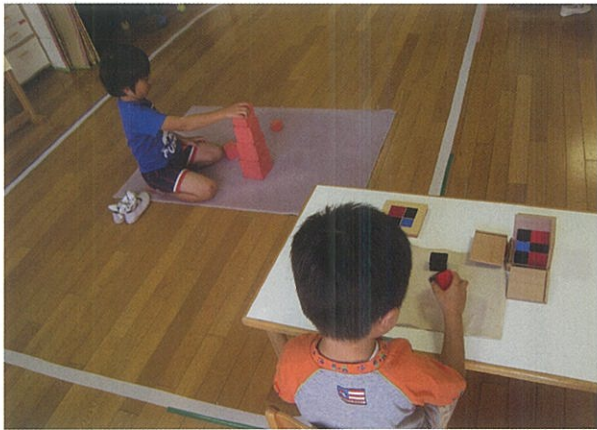
きぬえ

万世敬老園 あぢさゐ向会

たそがれて

いよよこほろぎ昇れる

月岡 久三



くれる人がいるということを実感しました。
 昨今、子どもたちの様子に変化してきたように感じています。話が聞けない、落ち着かないなど集中力が持続しない子どもたちが、多くなってきました。

指示待ち症候群という言葉があります。指示待ち症候群でも、『声をかけられるまですぐ動かない』という子どもたちの姿が最近見受けられることがあります。保育をしていても保育士の声かけが多くなっているのを実感しています。そのため事前に約束をし、できるだけ視覚で伝えることを見通しがつき、次の行動に移れるのではないかと考えました。片付けの時間を手作りの時計で

示したり、一日の大きなスケジュールをカードにして伝えていきます。今は何をやるのか自分で考え行動できるように、自主性が育つ保育を目指しています。

また、保護者が安心して園にお子さんを預けられるよう、保育参観や面談を多く行い、さらに連携を図りながら保育を進めていきたいと思っています。そして、保育指針が改定されるこの時期、園児の保護者だけではなく地域の親支援にも今まで以上に目を向けていかなければなりません。時代とともに保育園への役割が期待されまた、重要視される中で私たち保育士はさらに専門分野で力を発揮していけるよう、技術・資質の向上に努めていきたいと思っています。そして、昭和郷保育園の特徴を生かしながら継続し、地域に必要とされる保育園作りに職員一丸となつて取り組んでいきたいと思っています。(堀川記)

◆ 万世敬老園 ◆

万世敬老園、秋恒例の日帰り旅行は、十月七日に総勢五十三名にて『富士五湖周遊の旅』に出かけてまいりました。その日は、朝から曇り空でありましたが、一日を通して、暑くもなく、寒くもなく、丁度良い天候でありました。しかし、雲に隠れた富士山は一度も姿を見せないうままでした。『富士山が見たかった』との声が聞かれていました。富士山は見えなかつたけれど、今回の日帰り旅行で、職員が目撃したことがあります。『普段、遠くに外出出来ない



車椅子の方と一緒に旅しよう』でした。実際に参加した車椅子の方からは、『久しぶりに参加できて楽しかったけど、やっぱり疲れた』『いつも、部屋にいればいいので、気晴らしになった』『人生は旅だねえ』等の声が聞かれました。また、車椅子や足の弱い方が多くなつたことで、元気な方とのバランスが気がかりでした。しかし、そんな心配もどこへやら、元気な方は、すすんで車椅子を押す手伝いをしてくれたり、段差に気をつけてくれたりと、皆で助け合った楽しい時間を過ごすことが出来ました。まだまだ、万世敬老園の旅は続きます。次回の旅行では、『二百人全員参加』という、目標をひそかに考えています。(加藤記)

ライトホーム俳句

風招く
尾花に供えし吾亦紅
赤蜻蛉
目玉ぐるぐる杭の先
佳 杼

月祀る
むかしのやうな夢なくて
武藤 香雄

朝露に
ひんやり庭の草木かな
平岩 武二

虫のこゑ
煙草くゆらし耳すます
松本 誠司

信濃路に
コスモス波打ち秋を知る
三橋 久

白萩の
樹下いちめんこぼれに零れおり
関 紀恵

秋晴れに
散歩の足も軽やかに
覓えよう
今度こそとすぐ忘れ
園 柄

資格取得の紹介

左記の方が資格取得しました。
日頃の業務に生かして活躍を期待
します。

【給食用特殊料理専門調理師認定
技能検定合格】

さやま園
調理員 兵藤ゆり子

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方が
受賞授与されました。

おめでとつございます。

◎ 多全国老人福祉施設協議会多年功績

ゆたか苑
介護員 詫摩理絵子

バザーのお礼

十月十九日(日)、秋晴れのもと、昭和
郷フェスティバルが開催されました。
毎年、地域の皆様との交流をテーマとし
て、今年も大勢の方々が会場に来てく
ださいました。

昭和郷の各施設、模擬店、さやま園、
立川福祉作業所、地域の方のフリーマー
ケットなどのコーナーとイベントとして
市内昭和中学校吹奏楽部の演奏も行
われました。

ボランティアの皆様には、二日お手伝い
頂き、厚く御礼申し上げます。

また、地域、利用者、保護者の皆様に
は、物品、その他たくさんのご寄贈を頂
きありがとうございました。

2008 福祉サービス 研究発表会

日時 平成20年 11月21日(金)

開場開始 12:00
開場終了 12:50
開場終了 17:30

入場無料

基調講演 市川 一宏先生(ルーテル学院大学 学長)

会場 なかのZERO
小ホール550席

JR 中野駅南口から徒歩 8分



共通テーマ 地域と協働する福祉サービス
***** 発表内容 *****

高齢者支援系
福祉サービス

スウェーデン式認知症緩和
ケア
～タクティカルケアと地域福祉
新型養護老人ホームに必要な
なことを考える
～地域参加への取り組み

障がい者支援系
福祉サービス

今、施設に求められる就労
支援とは
～企業・利用者アンケートから見
えてきたもの

保育支援系
福祉サービス

子どもの育ちと食育
～生活リズムと食生活の見直し
から

児童・女性支援系
福祉サービス

精神的ケアに向けて
～地域と共に

お問い合わせ 03-3341-7161 研修委員会
<http://www.douen.jp/>

多くの皆様のご支援、ご協力で、昭和
郷フェスティバルが開催出来たことに、感
謝し、これからも、昭和郷の各施設が地
域の皆様へ、開かれた施設、地域の中の
施設として努力してまいります。ありが
とございました。



雑 感

あるタクシーに乗り合わせた際に運
転手さんが「人生はレコード盤のよう
なもの、歳をとる毎に二回り(二年)するの
が早くなる」と話されていたのを思い出
します。

イチョウ並木の下に落ちる銀杏を見
ながら、秋の深まりを感じ今年も残す
ところ二月。

しかし、今年忘れられない感動的
な出来事がありました。それは夏の甲
子園。激戦区を勝ち抜き、甲子園の切
符を手にした若者の中に、十二年前に卒
園した彼の姿がありました。テレビ観
戦しながら画面に映る彼の顔に保育園
時代の面影がダブりました。

汗とほこりに塗れ、夢を追う彼の姿
に感動し、必死に応援した事が昨日の
ようです。

全ての子ども達が、自分の夢に向か
い、輝いてくれることを願いながらた
くさんの感動を与えてくれた彼らに感謝
です。

夏の暑さより、オリンピックの熱さよ
り、熱い熱い私の甲子園でした。

銀杏の実が、レンジの中でポーンポ
ンと弾けました。(高橋 記)

― 表紙の写真 ―

「長野県上高地 カラマツ林」

(高木道信 氏)

平成二十年十一月十日 発行

東京都新宿区原町三の八

電話 〇三(三三四一)七六一

社会福祉法人 財団法人 東京都同胞援護会

発行者 牧 野 洋 一

印刷所 東京都同胞援護会事務局

東京都千代田区外神田一―一五